

◆実践校名 松原市立松原第二中学校、松原市立松原第六中学校、羽曳野市立高鷲中学校、東大阪市立花園中学校

◆主題名 目標に向かう意志 道徳の内容 A－強い意志

◆ねらい

・目標をもつことについて今の自分と照らし合わせて考えることを通して、目標に向かって努力することの意義について主体的に考え、判断・行動できる力を育てる。

◎中心的な発問

「僕」が「自分に足りないものが何なのか、ようやくわかった気がしています」と書いたとき、
どんなことを考えていただろう。

◆本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎山中伸弥さんについての知識を共有する。	<p>この人を知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府出身。・京都大学医学部卒業。 ・1962年9月4日生まれ。 ・中学生から大学生まで柔道をしていた。 ・大阪マラソンに出ていた。 ・京都大学医学部卒業。 ・ノーベル賞を受賞した。・iPS細胞を作った。 	○プロフィールの説明や、写真の提示などから山中伸弥さんを連想する。クイズ形式にし、資料への興味付けをする。
展開	◎資料を範読する。 ◎中学時代の山中さんは目標の意義をどのように捉えていたかを考える。	<p>中学時代の山中さんの「目標をもつことの意義」は何だと思えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やる気を持つものが分かること。 ・何に向かって頑張ればいいのか分かること。 	○教師が範読する。 ・内容を追いながら、キーワードを板書する。
	◎「僕」の今の自分を振り返って考える。 ◎「僕」が自分のことを振り返って考えたことについて、話し合う。	<p>「僕」が「少し試してみてもうまくいかないと、すぐにあきらめる癖がついた。」とあるが、なぜだと思えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかないことが増えたから。 ・難しく投げ出したから。 ・思うようにいかなかった。 ・机を班の形にする。 <p>「僕」が「自分に足りないものが何なのか、ようやくわかった気がしています」とますが、「僕」はどんなことを考えていたと思えますか。</p>	<評価> 自分と照らし合わせて書けているか。

展開		<p>(グループで話し合う。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次々に目標を立てて、少しずつ進んでいくこと。 ・遠くにある大きな目標にたどり着くために、進んでいくこと。 	<p>(評価方法)</p> <p>ワークシートの内容</p>
終末	<p>◎本時を振り返り、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書きましょう。 	<p><評価></p> <p>学習を終えての感想</p> <p>(評価方法)</p> <p>感想を通信に載せて、読み合わせをし、道徳的価値や自覚を深める。</p>

◆研究のまとめ（Lチーム）

○道徳の評価についての提言

～チームとしての「道徳の評価についてこう考える」～

●ワークシートの記入、普段の行動・発言等

一口に評価といっても、評価物は一つだけであってはいけない。生徒を多角的に評価するためには、いくつかの評価物が必要である。ワークシートの記入だけでなく、道徳授業を飛び出して、普段の行動や言動の変化にも表れなければ、道徳心の育成とはいえないのではないだろうか。今回の研究から、多様な評価の必要性が見えてきた。

●主観に偏りがちになってしまうので、第三者の目（客観性）が必要なのではないか。

評価する人間が一人になってしまうと、その一人のみの主観に偏ってしまう恐れがある。生徒と関わり、道徳授業を行う教師の評価はもちろん必要であるが、第三者の客観性を取り入れた評価は考えていくべきである。

●上記に関連して、誰が評価をつけるのか。

第三者の目とは、どこまでの範囲をさすのか。誰が評価を行うことが適切な評価といえるのか、今回の研究から、課題が見えてきた。

●何のために評価をするのか。

生徒の“こうすべき”を“こうしたい”に変化させるために評価を行うものとする。

そのためには、「ダメ」なものを「ダメ」とするのではなく、成長につながるような記述をしなければならない。

○授業実践について、チームとしてのまとめ

●教師の教材理解について

かなり教材を読み込んだ上で授業に取り組まないと、生徒の発言に対して返すことができなくなる。返すことができないと、話が深まらなかつたり、評価がしにくくなったりする。したがって、かなり時間をかけた教材研究が必要である。読み込み次第でポイントに応じた返しがうまくいき、感想についても内容が広がる。

●教材によって合う、合わないがある

教材の内容を吟味して授業をしても、内容が理解しにくい子にとっては、意味がわからないことがある。意見の対立がなく、雰囲気やしんどいことがある。教材はできるだけ何を論点とし、何を目標にするのかを明確にし、できるかぎり分かりやすい説明をして理解を深める努力をする必要がある。導入をうまくすることで、いい雰囲気でも授業を展開することができる。

●発言しやすい子、しにくい子と普段の生活

発言を進んでする子やワークシートをきっちり書く子の理解はしやすいが、発言をしにくい子やワークシートを書けない子の理解がしにくい。その場合、普段の生活での状況を見て評価をする必要がある。それは授業だけではなく、実践に生かされているかをみる上で、すべての生徒に対して普段の状況を見ていかななくてはならない。

●ワークシートについて

ワークシートは書くことで子どもの姿を表すものであるため、ワークシートを書かされるのではなく、書けるようにしていかななくてはならない。そのためには、書きやすい形を研究していく必要がある。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

<中心発問の場面の発言の様子や内容から>

・「目標をもつことが大事だと思った。」と答えた班があった。指導者が「大事だからどうすればいいのかな、その結果どう考えたのかな。」と尋ねると、「どんどん目標をつくって行って、それを少しずつ達成していこうと前向きに考えている。」という意見が出た。

・「努力が必要だと思う。」と答えた班があった。指導者が「どうしてそう思ったのかな。」と尋ねると、「自分はすぐに諦めていたけど、山中さんは諦めずに努力し続けたから夢はかなったし、ノーベル賞もとれたんだと思う。」という意見が出た。

・「目標を一つ成功したら、そこですぐ終わってしまう。」と自分に照らし合わせて答えた子がいた。指導者が「では、山中さんはどうしたのかを考えて、あなたができることは何かな。」と尋ねると、「目標を作って、成功したら次の目標を立てて、小さいことでもいいから何事にも目標を作ろうと思えた。」という意見や、「有言実行する姿がかっこいいと思った。目標を達成しようではなく、達成したら次へという姿にあこがれる。」という意見が出た。

・「目標を達成するという気持ちが足りないこと。」と答えた班があった。指導者が「以前はどう思っていたのかな。」と尋ねると、「以前は、目標を達成しようという、弱い考えだった。」という意見が出た。

<学習を終えての感想から>

・「私はこれをやりたいと思うことはよくあるけど、それを実行できません。最後まであきらめずに一生懸命できません。その『だらけ』がだめなんだなと思います。一度やりたいなと思ったら、最後までやり切りたいです。大きな目標にたどり着くには小さな目標からコツコツとやっていくことが大切だと思いました。『有言実行』したいです。」のような自分のだめな点を変えていこうとする内容が見られた。

・「目標を持つというのは、自分を前進させる強い追い風になるし、自分を高め、自分の限界を超えるのに役立つものだと思います。目標を達成するにはたくさんの努力が必要になるし、諦めるというのを忘れて必死に食らいつくというのは自分を強くしてくれる。自分ももっと大きな目標に向かって努力したいと思いました。」のような、自分の今までの考えが、さらに前進する考えに変わったという内容もあった。

・「山中伸弥さんの『有言実行』する姿が僕はかっこいいと思いました。（中略）ノーベル賞をとったのにもかかわらず、次の目標に向かってまた仕事を進める姿がかっこいいと思いました。」という、終末がここまでの意見が多かった。能動的に、だから自分はこうしたいという意見は多くなかった。この点はこちらからの伝え方に問題があったように思う。

○成果と課題

<成果>

- ・生徒が発言した内容を聞いて、さらに深めることで、具体的な感想を書く生徒が増えた。
- ・聞きなおして、生徒個人と照らし合わせた内容が出てきたので、生徒の集中力が向上した。

<課題>

- ・生徒の答える内容が長いと、返し方が難しくなる。指導者はかなり読み込んでおかないといけないと思った。
- ・指導者が一言発した言葉を生徒は使ってしまう。例えば、「有言実行」など。
- ・感想で、これからどのようにしたいという答えが少なかった。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

自分は、すぐに諦めていたけど"山中さんは諦めずに努力し続けていたから、夢はかなったし、ノーベル賞もとれたんだ"と思う。だから努力が必要なんだと思う。

（中）
 ちゃんと自分があるべき事、足りない部分があつておもしろい。前に進めるような気がしてきたし、面白いかと考えていると思う。
 （左）
 どんどん目標を作っていて、それを少しずつ達成して、いこうと前向きに考えていく。

目標を達成しようという気持ちもなく目標を達成する。という気持ちがない事。

目標をもつというのは、自分を前進させる強い追い風になるし、自分を高め、自分のげんかいをこえるのに役立つものだと思います。目標を達成するにはたくさんの努力が必要になるし、あきらめるといふのを忘れて必死に頑張らなければならないのは自分を強くしてくれる。自分も、もっと大きな目標に向かって努力したい

私はこれやりたい。と思うことはよくあるけど、それを実行していません。最後まであきらめずに一生懸命です。そのためには、ためなれたか。と思います。1度やりたいかと思えば、最後までやりかたっています。大きな目標にたどり着くには、小さな目標からコツコツとやり続けることが大切だと思いました。「有言実行」したいです。

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

※当該学年4クラスで実施した意見、学年教師との意見交流より。

○主発問のワークシートの記述から

・「次々に目標を立てる」という山中さんの生き方に「僕」は共感を覚えたと考える生徒が多かった。大きな夢だけをめざし挫折していたが、小さな目標の積み重ねこそが夢を叶えることに気づいたのではないかと、という意見も次いで多かった。中には夢をあきらめないことが小さな目標の達成に必要なだとする意見もあった。

・主発問に限ったことではないが、生徒の意見に大きな違いや意見の対立は見られなかった。ワークシートへの記入が自分の言葉で考えられているかを評価したい。

○授業を受けた感想から

・山中さんに共感し夢を叶えるための目標の大切さについて書く生徒が多かった。中には自分の将来の夢と今の自分の現状について振り返っている生徒もいた。また、「僕」に共感し諦めること夢見がちで目標をないがしろにしていた自分に気づいたと述べる生徒も多かった。そんな中でも、「目標を決めるだけではなく、何を実行するかが大切」「大雑把にとらえていた夢も毎日の目標を立てることを考えると急に怖くなった」という感想もあった。授業を受けて感じた、目標についての自分の考えを自分の言葉で書いていることを評価したい。

○成果と課題

・発言は板書し意見の共有には活用するが、その内容から評価をするのは難しいと思われる。教師に近い座席の生徒やクラスで発言力のある生徒に発言が集中し、評価の材料としての公正性に欠けると実感した。また実際に発言や姿勢を評価するなら、毎時間の授業の録画や録音の必要性が考えられるが、学年の教師体制ではまかなえないので現実的でないと感じた。

・毎時間のワークシートの記述から考えの深さや感性をうかがい知れるので、そこを評価材料とすることは可能であると思われる。しかし、「前回より深く考えられたか」という比較での評価は難しい。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

・目標はいうだけやったら誰でもできるけど、結局それに向かってどうするかが大事やと思った。

・目標ってもっと大雑把に考えていたけど細かく考えてみようかと思う。けど、なんだかわからんけど、ちょっとだけ大人になるのが怖くなった気がする。

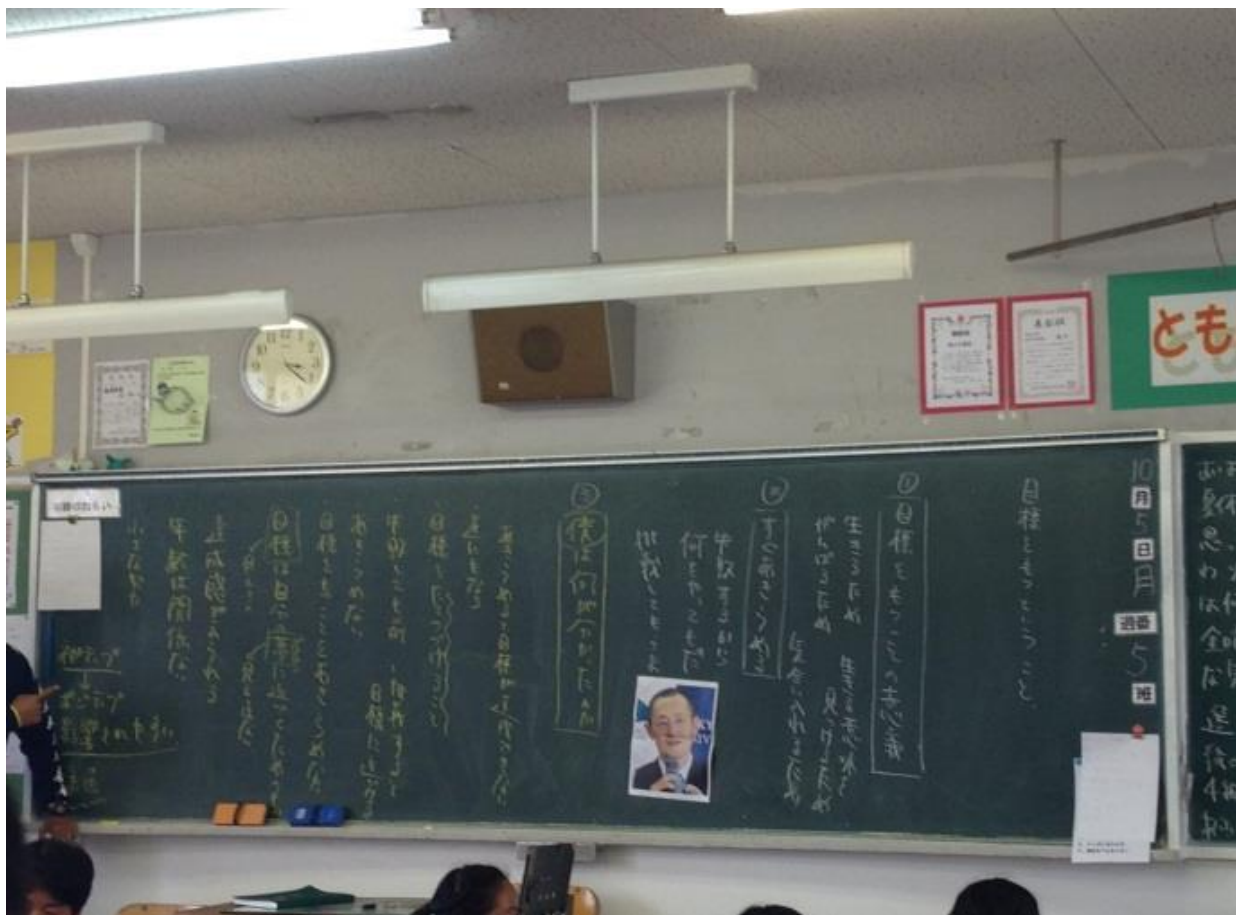
・夢を諦めることも悪いことじゃないと思う。大切なのは諦めた後に自分に何ができるかを考えることだと思う。

・自分にも将来の夢はあるけど、目標は立てずに適当に生きてる気がした。目標をいっぱい達成して、夢に近づけるんちゃうかな、と思った。

・人は誰かの影響で考え方が変わったりすることがすごいと思った。

・すぐに諦めないこと、はじめから「できない」と決めつけないことが大切だと分かった。

・山中さんはすごい人だと思っていただけ、段階を踏んで結果を残してるんやなと思った。



実践校名 (松原市立松原第六中学校)

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

【ワークシート】

◇最後の振り返りで評価

- ・自分のこととして書いている。深めた、深まった、考えを書いている。
（今回の場合では、1つの目標はどこにつながるのかということの前ふりしておいて、そのことを文章を読んだあとにもう一度考えさせ、次へ次へつながっていくのが目標であることがつかめるようにした。1つの目標が失敗に終わったとしてもポジティブに次につなげていける心が育てばと思った。）
- ・ワークシートで書けても、発表してくれなかったり、全く書けなかったりと評価という観点で見ると難しい。
- ・言葉を使って表現することが苦手な生徒でも、積極的に発言・発問したことが道徳的信条と合致していればワークシートに書けてなくてもよしとする。
- ・道徳的な感覚を持っていれば、ワークシートを見て先先に記入する生徒がいる。ねらいとあっていたらOKか…。確認のため、発表させる。
- ・目標をあまり立てない子が「山中さんみたいに大きな目標は立てられないと思うけど、自分ができるなりの努力をして達成させることをがんばらないといけないと思いました。」と書いている。
- ・評価の観点として、「自分を見つめなおし、これまでの失敗談を振り返ることができたか」「資料の「僕」の想いを受けて、自分なりに目標をもつことの意義を学習の振り返りとして考えることができたか」という視点を入れてもよい。
- ・自分の体験や考えに
沿って書けているか◎
部分的に抜けていてもある程度書けているか○
全く記入できていない、道徳的に著しく逸脱しているか△
を評価し(教師側での評価)、後の文章表記に反映させる。

【支援】

- ・目標への姿勢が、記述から読み取れない場合や行動に移そうとしない生徒には、ワークシートへのコメントや声かけ

○成果と課題

【課題】・発言しない生徒の評価方法

- ・ワークシートだけでは評価できない部分をどう評価するか(日常生活で見えるところがあるので)
 - ・内容は、時期として2・3年の4～5月にやると良い内容
 - ・中心発問はあまり教師が言葉を足さなくても資料からよく読み取り、大半の生徒が書くことができた。ただ、支援が必要な生徒には内容自体が難しく、何か理解のための手立てが必要。
 - ・理想とする展開例を書いた指導案も必要ではあるが、真に必要なのは、しんどい学校・学級でどう道徳を展開するか、興味を持たせるかを練った指導案であり、この部分が改善されない限り道徳の教科化は大変難しい。
 - ・表現(表記)の乏しい生徒は評価が下がる。反対に読み取り能力や、道徳としてこれが正解だろうと推測し、表現できるものは評価が上がる。表現能力の差を考えると日常生活でも、評価の観点を取り入れるべき。
- ☆文章化する力はないが、道徳的心情・行動をもつ生徒への評価。(授業時の行動での評価)

◆評価に用いた資料サンプル
(子どものワークシートなど)

◆評価に用いた資料サンプル (子どものワークシートなど)

○「目標をもつということ」

「僕」が「自分に足りないものが何なのか、ようやくわかった気がしています」とありますが、「僕」はどんなことを考えていたと思いますか。

①「足りないもの」とは何だろう？

何事もあきらめずにやりきる力

②そう書いたときの「僕」の気持ちを想像してみよう。

みんな自分と同じ気持ちだと思っていたけど、山中さんのような人は、目標を達成できるんだな。と思う気持ち。

①「足りないもの」とは何だろう？

・目標に向かって、達成したいという気持ち。
・努力、あきらめない心

②そう書いたときの「僕」の気持ちを想像してみよう。

・目標を達成できなく残念だったこともあるが、次からは、必ず目標を、頑張ろうという気持ち。
・自分が目標を定めたという優越感、自分に自信

○この学習を終えて考えたことを書きましょう。

今まで、たくさん「目標」を書いてきたけど、それを書く意味が分かった気がしました。これから「目標」を決める時は山中教授のように目の前にある「目標」からこつこつ頑張って達成して大きな「目標」をやり遂げるようになりたいです。

夏休みの目標をもつ「過ぎた」と、達成できなかった。その時とても悔しかった。だから、次からは頑張ろうと、思っていたけど、最近「忘れたいかもしれない」と、今日道徳をうけて改めて目標をもつ大切さを知った。

今まで、目標を立てることも、少なからず、達成できなかった。でも、今までは色々な目標を立てて諦めていた。でも、今からは、目標を立てる時に、山中さんのように、大きな目標を立てたいと思うけど、自分が2人分の努力をして、達成できることを目指すかな。という、思いを持つ。

自分は、なにも目標をたてずに生きてきたから、特別がんばった、経験もないから、この話を聞いて思った。自分だけが頑張るのではなく、この話を聞いて目標をたてたいと思う。

夢に向かう途中人は1回はあきらめよう方向に向く事があると思うけどその人と1時に自分がはげば叶うからそう思えば自分もがんばろうと思えた。今日から色々がんばろうって思いました。

◆実施学年（3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

◎主発問のワークシートの記述から

- ・主発問を投げかけたとき、「すぐにあきらめてしまう自分を変えたい」や、「もう一度トライしたい」、「面倒くさがらない自分になろう」など、「僕」の心情に迫った意見が出た。
- ・「目標の大切さ」や「あきらめないこと」など表層の意見のみに留まってしまう生徒もいたが、中心発問後の意見交流では、ほとんどの生徒が活発に意見を出し合う様子が見られた。

◎授業内での評価について

- ・授業を実施していただいた先生方からいただいた意見の中には、偉人や現在も生きている人についての道徳はあまり取り扱ったことがなく、生徒も作者「僕」になりきって考えることは難しそうであった、との意見があった。また、「僕」の年齢も生徒と近いせいか、やはり素直に自分の意見を出すことが困難な生徒が多かった、などの意見もあった。

○成果と課題

< 成果 >

- ・生徒が発言した内容を聞いて、さらに深める発問を続けることで、具体的な感想を書く生徒が多かった。

< 課題 >

- ・表層的な意見に留まってしまう可能性が高いため、指導者はかなり読み込んで資料分析をしておかないといけないと感じた。